

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	西東京市東町 2-16-25
園名	もりのなかま保育園保谷園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「日常にあるものや事象に対する探究」

<テーマの設定理由>

子ども達が普段の保育の中で、日常にある物や事象に対して、特定の一点に焦点を当てることで、その物や事象を多角的な焦点で捉え、より深く探究する事が出来る。日常にある物や事象をテーマに選んだ理由は、子ども一人ひとりの興味関心を反映させることで、子どもの好奇心を受け止め、引き出し主体的に関わる姿を育てていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール「日常にある物や事象に対する探究」

- 6月…「日常にある物や事象に対する探究」～土と砂～
- 7月…「日常にある物や事象に対する探究」～ウオーターマット～
- 8月…「日常にある物や事象に対する探究」～水の冒険～
- 9月…「日常にある物や事象に対する探究」～布～
- 10月…「日常にある物や事象に対する探究」～光
- 11月…「日常にある物や事象に対する探究」～磁石～
- 12月…「日常にある物や事象に対する探究」～トイレトペーパー～
- 1月…「日常にある物や事象に対する探究」～音～
- 2月…「日常にある物や事象に対する探究」～ゴム～
- 3月…「日常にある物や事象に対する探究」～におい～

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが興味を持った身近な素材…風船・砂・布・磁石・紙・水・氷 LED ライト
コーンスターチ・ミニラエッセンス・食紅
それぞれが活動に取り込めるような道具…トレー・紙コップ・磁石・セロハン・カップ
LED ライト
興味を深めるための道具…ライトテーブル
活動しやすく、子どもたちの言葉や気づきを聞き取りやすい少人数の環境構成

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日常にある物や事象を題材に、子どもたちが活動に興味を持てるような身近な素材に触れながら自ら興味をもって関わる活動を行った。五感を使った体験を大切にしながら、「自分でやってみたい」「もう一度やりたい」と思えるような環境構成を考え、活動を進めた。子どもたちの言葉や表情を写真やメモで記録し、職員間で共有・振り返りを行いながら子どもたちの興味や姿への理解を深めた。保護者にドキュメンテーションを作成し、その日のうちに玄関掲示。連絡帳や口頭で活動の様子を共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動では、様々なテーマの身近な素材に触れ、子ども達が自分で思い切り触ったり混ぜたりする中、たくさんの経験をすることで笑顔を見せる姿が多く見られた。初めは、保育士の問いかけに応じて触れる事が多かったが、回を重ねるうちに自分から声をあげ、手を伸ばして試すことも増え、全員が積極的に活動に参加できていた。
保育士は子どもたちの表情や仕草に寄り添い言葉で共感しながら見守り、安心して困った時など声を掛けやすい雰囲気作りをして活動に楽しく取り組めるように環境を整えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動を通して、子どもたちが五感を通じて素材の変化に興味を示していることに改めて築いた。子ども達一人ひとりの表情や反応は異なるが、それぞれの素材の変化や不思議を楽しみながら取り組む姿が見られた。保育士は子どもの同行を見守ると共に、必要に応じて声掛けなどの援助をおこないながらも温かく見守った。小さな気づきにも一緒に喜びを共有し関り広げる声掛けをおこなう事で、子どもたちの興味を広げていく事ができた。